

# 教師とは

北海道師範塾「教師の道」会計 近田 勝信

第4期教師養成用講座「教師への道」の開講初日に、講義「教師とは」を担当した。教育は、児童・生徒や教職員などの人的要件、校地・校舎・校具などの物的要件、管理費などの経済的要件、さらにこれらの3要件を有機的に結びつけて教育効果を上げるための経営的要件が揃って成立する。教育の成果を上げるためには、いずれも不可欠な要件であるが、私は「教師」こそが最も重要な要件だと考える。

平成24年8月28日中央審議会答申では、教員に求められる資質能力について、表1のように整理している。要約すると「専門職として専門的な知識や技能を持ち、教職の責任感・使命感を持った上で、総合的な人間力を土台にして教育に当たる」、このような教師像が見えてくる。さらに、道教委では、「信頼される教師」の具体的な姿として、表2のとおりに教師像を示している。この二つは、表現方法はそれぞれであっても、「教師の人間性」を重要視していることが一目瞭然である。「教育は人なり」がまさに不易であることがわかる。

しかし、実際の教育現場では「信頼される教師」のお手本となる先生がいる反面、同僚としてこれは如何なものかと首を傾げることがいくつもあった。「教師とは」の一面を実際の経験から考えてみたい。

## 「個人情報だから」

世間で言ういわゆる進学校、学力もあり、礼儀も正しく、先生には余計な手間を掛けさせない生徒達である。一見、順風な学校生活を送っているように見えても、何処にでも見られる悩み多き年頃である。廊下ですれ違ふと、いつも何人かの友達と一緒に、笑顔で挨拶をする女子生徒である。しかし、何となく元気がなく心配な様子があった。担任に聞けば、家庭のことで悩みがあるらしいのだが、聞いても話したがらないのでどう対処して良いか困っているとのことだった。同じ頃、その生徒の所属している部活動の顧問と別件での打ち合わせが終わり、その生徒の家庭環境に話が及んだ時、顧問は、家庭環境はわからない、個人情報だから立ち入らないようにしているとの話し振りである。私は、この先生は何を考えているのかと愕然とした。

これは、ただ単に個人情報の取扱いを間違えているだけでなく、それを口実に生徒との間に一線を引き、それ以上は関わらない姿勢である。生徒と触れ合う中で、生徒の内面を感じ取り、悩みがありそうならこちらから声を掛けるのがごく当たり前の教師ではないか。生徒への思いやりや愛情を持ってこそ教師と言える。

## 「人付き合いを嫌う」

学校の仕事は、一人で担当する授業以外はほとんどがチームとして業務を遂行する。チームでの仕事は、先生方一人一人の教育観や職業観があり、すんなり意見がまとまらないことが多い。教育論だけで話を詰めていってもまとまらない時があり、特に方法論ではどちらも間違っていない場合がよくある。そんな時、お互いの生徒や教育に対する思いを受け入れて、落としどころを見つけていく。しかし、このような場合は双方の人間性ができていたり、日頃からの人間関係もできていることに上手くいく背景がある。

このような人間関係づくりに役立つのが、日頃の人付き合いである。仕事を離れての人

付き合いの中から、人間性の膨らみを増していく。今ほど仕事量が多くなかった時代に生きた人は、勤務を終えてからの付き合いでどれほど鍛えられ、助けられ、仕事人として成長しただろうか。

個人的な付き合いだけでなく、職場全体の付き合いもある。歓迎会、送別会、忘年会などは、本務でないにも関わらず、日本の職場社会で大事にされてきたものである。しかし、これも時代と共に様変わりして、このような付き合いの場に出てこない輩が目につくようになってきた。本務ではないから、参加は任意であるが、このように人付き合いの場を避ける人は、はたして教師として生徒や保護者と十分な意思疎通ができるのだろうか。私が見てきた中では、良い例は見たことがない。ましてや、今では職場の親睦会に入らない者も見受けられる。付き合いの場を避けることで、その人の社会性はどれほど狭められて行くかは当人に自覚はないであろう。このような人には、積極的に人付き合いをして、自身の人間性を高めよと進言したい。

「二つの事例から学ぶこと」

この二つは「教師とは」の表題からすると、点に過ぎないほどの些少な事例である。しかし、教育は人と人の営みゆえに、面付き合わせて、膝を交えて、そして腹を割って話すことが如何に大事か。生徒には豊かな心の育成に向けてコミュニケーション能力を身に付けることを指導しながら、自らはその機会を遠ざける。果たして、これで教師は務まるのか。誰しもが同じ答えを出すことだろう。

中教審答申や道教委の資料では、これほどの具体的な表現ではないが、「豊かな人間性や社会性」、「子どもと触れ合う教師」の言葉の中に、同様の想いが込められていると受け止めている。教師とは、人間性が土台にあつてこそ、専門職としての高度な知識や技能が発揮されるものと考えられる。

北海道の教師には、未来に生きる子どもたちのために、生徒や保護者から信頼される資質や能力を持った人であってほしい。

(思いのままに記して)

(表1) 平成24年8月28日中央審議会答申

教員に求められる資質・能力		
◎教職に対する責任感、探究心、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力 ・使命感 ・責任感 ・教育的愛情	◎専門職としての高度な知識・技能 ・教科や教職に関する高度な専門的知識 ・新たな学びを展開できる実践的指導力 ・教科指導、生徒指導、学級経営等を的確に実践できる力	◎総合的な人間力 ・豊かな人間性や社会性 ・コミュニケーション力 ・同僚とチームで対応する力 ・地域等と連携・協働する力

(表2) 平成25年度「学校教育の手引きー新しい先生のために」

授業を大切にする教師	子どもと触れ合う教師	自己を高め、学び続ける教師
保護者や地域社会と手をつなぐ教師	専門性に優れ、個性豊かな教師	